

福井ふるさと学びの森 奥越エリア 第5回体験イベント
六呂師高原ものがたり ◇「湿原の彩りー黄色と紫色ー」

- 1 日 時：平成27年8月9日（日）
午前の部 10：00～12：00
午後の部 13：30～15：30
- 2 場 所：福井ふるさと学びの森（勝山市 池ヶ原湿原）
- 3 参加者：午前の部 11人（大人9、子ども2）
午後の部 5人（大人2、子ども3）
- 4 講 師：北川さん、山本さん（ともに自然観察指導員の会）
- 5 内 容：（午前午後とも同じプログラム）
 - ・湿原を散策しながら、湿原に生息する生きものについてのお話を聞きました。
まず、散策する際の注意点として、昆虫採集する際の約束事（観察→捕獲→リリースする）、危険な動物（ヘビや熊）への対策についての話を聞きました。
 - ・湿原の成立条件の説明を聞き、地下水位、PH値、栄養素等のデータを実際に計測しました。
湿原には植物は育つための栄養が少ないという特徴があり、栄養が豊富なところには湿原植物は生育できないそうです。そのため池ヶ原湿原の水は美味しくないそうです。不思議ですね。
 - ・湿原いっぱいには生育する葦について、生育環境、葦刈りの影響、希少植物の生育環境に配慮し少し高さを残していることなどの説明がありました。
 - ・高いところからも湿原全体を観察（池ヶ原湿原ができた経緯、湿原の歴史など説明）
 - ・食虫植物（モウセンゴケ、イヌタヌキモ）、途中で見つけた草花（ミソハギ、オオミズゴケ、オニユリなど）を随時説明
 - ・外来植物（オオハンゴンソウ）を参加者ととも採取、廃棄も行いました。
 - ・子ども達には玉網を持ってもらい、昆虫採集も同時にしてもらいました。
とても大きなオニヤンマを捕まえることができ、大満足の様子でした。
- 6 イベント全体を通して
 - ・コバギボウシ（紫）が一面に咲き誇り、紫の花は満喫できた。
残念ながら黄色の花（メタカラコウやノカンソウなど）がほとんどなく、当初の目的の「紫色と黄色」の両方は観察できず少し残念でしたが、思うとおりにならないのも自然ですね。
 - ・とても暑い日でしたが、途中小まめに日陰で休憩をとったため、2時間の散策もあった言う間でした。ほとんどの参加者は初めての池ヶ原湿原であったため、講師から湿原に生息する動植物について幅広く説明がなされ、貴重な植物が多く生息していることを実感できたようでした。



コバギボウシ



イヌタヌキモ観察中



湿原を散策中